

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担 当 課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道180号 総社・一宮バイパス				事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：岡山県岡山市北区櫛津 至：岡山県総社市井尻野						延長	15.9km
事業概要								
一般国道180号は、岡山県岡山市から島根県松江市までを結ぶ延長約180kmの主要幹線道路である。 総社・一宮バイパスは、岡山県南部の中央に位置し、岡山市北区櫛津と総社市井尻野を結ぶ延長15.9kmのバイパス事業である。 事業目的は、一般国道180号の岡山市北区櫛津から総社市井尻野の交通混雑の緩和及び交通安全の確保等である。								
S48年度事業化			S63年度都市計画決定		H元年度用地着手		H元年度工事着手	
全体事業費		約 750億円		事業進捗率 (令和7年3月末時点)		約47% 供用済延長		6.8km
計画交通量		20,500～53,800台／日						
費用対効果分析	B/C	EIRR		総費用		総便益		基準年
	(事業全体)	(事業全体)		(残事業)/(事業全体)		(残事業)/(事業全体)		令和7年
	2.4			358/ 993 億円		2,140/2,412億円		
	3.9 [2%]	6.6%		〔事業費： 298/908億円〕		〔走行時間短縮便益：1,858/2,120億円〕		
	5.0 [1%]			維持管理費： 60/ 85億円		走行経費減少便益： 231/ 238億円		
	(残事業)	(残事業)		更新費： —/— 億円		交通事故減少便益： 51/ 54億円		
6.0			感度	(事業全体)		(残事業)		
8.5 [2%]	20.9%		交通量	B/C=2.0～3.0(±10%)		交通量	B/C=4.8～7.5(±10%)	
10.3 [1%]			事業費	B/C=2.4～2.5(±10%)		事業費	B/C=5.5～6.5(±10%)	
			事業期間	B/C=2.2～2.7(±20%)		事業期間	B/C=5.5～6.5(±20%)	
事業の効果等								
①円滑なモビリティの確保								
・渋滞損失時間の削減が期待される								
・混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される								
・国道180号現道を利用するバスの定時性向上が期待される								
・高梁市から岡山駅(新幹線駅)へのアクセス向上が期待される								
・総社市から岡山空港(第三種空港)へのアクセス向上が期待される								
②物流効率化の支援								
・総社市から岡山港(重要港湾)へのアクセス向上が期待される								
③都市の再生								
・広域道路整備基本計画に位置付けのある環状道路(岡山環状道路)の一部を形成する								
④国土・地域ネットワークの構築								
・地域高規格道路(岡山環状道路)に位置づけられている								
・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が期待される(総社市－岡山市)								
⑤個性ある地域の形成								
・吉備路・備中国分寺(R6観光入込客数：約132万人)、総社・宝福寺(R6年観光入込客数：約36万人)へのアクセス向上が期待される								
⑥災害への備え								
・第一次緊急輸送道路に位置付けられている。								
・緊急輸送道路である国道180号が通行止めになった場合の代替路線を形成する								
⑦地球環境の保全								
・CO2排出量の削減が期待される【3,561千t-CO2/年→3,547千t-CO2/年】								
⑧生活環境の改善・保全								
・NOx排出量の削減が期待される【8,256t-NO/年→8,217t-NO/年】								
・SPM排出量の削減が期待される【424t/年→421t/年】								

⑨他プロジェクトとの関係

- ・国道180号岡山西バイパス(西長瀬～檜津)(R2年度事業化)、岡山環状南道路(H21年度事業化・R8年度開通予定)と一体的に整備する必要がある。
- ・第4次晴れの国おかやま生き生きプラン(R7.3)において「企業誘致・投資促進プログラム」の重点施策「交通基盤整備」に位置づけられている。
- ・岡山市第六次総合計画後期中期計画(R3.6)において「人と環境にやさしい交通ネットワークの構築」の重点施策「道路ネットワークの充実・強化」に位置づけられている。
- ・総社市第二次総合計画後期基本計画(R3.3)において「住宅・都市基盤・公共交通等」の整備として位置づけられている。

関係する地方公共団体等の意見

◇岡山県知事の意見:対応方針(原案)は妥当である。

本事業は、一般国道180号の交通渋滞の緩和、交通事故の減少、高速道路ICへのアクセス性の向上などが期待されることから、早期完成が必要である。コスト縮減に取り組み、効率的に事業を進めていきたい。

◇岡山市長の意見:対応方針(原案)に異議ありません。

一般国道180号 総社・一宮バイパスは、現道の一般国道180号の渋滞を緩和し、緊急輸送道路である現道の代替路線を形成するとともに、数多くの観光資源が分布する吉備路エリアへのアクセス向上などに大きく寄与する重要な道路であるため、早期開通に向けた着実な整備を要望します。

事業評価監視委員会の意見

- ・事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針(原案)について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。
- ・審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

一般国道180号総社・一宮バイパス(総社市総社～小寺)延長1.9kmが令和4年度に開通

岡山総社インターチェンジ流通センターでは大型物流倉庫GLP岡山総社Ⅲが令和4年3月に竣工

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和6年度末時点で、事業全体の進捗率は約47%、用地進捗率は約51%である。

現在までに岡山市北区高松田中～総社市小寺までの5.3kmおよび、岡山市北区檐津～岡山市北区一宮山崎までの1.5kmが開通している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

投資効果の早期発現を図るため段階的に整備しており、引き続き早期全線開通を目指し事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

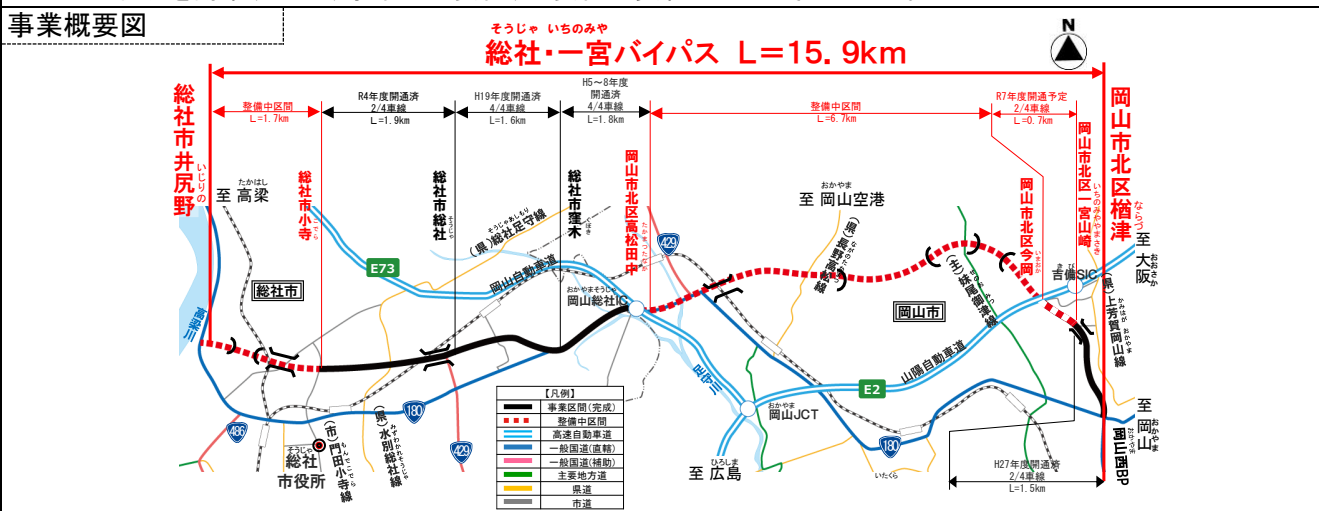
今後の事業実施にあたっては、コスト縮減に努めていく

対応方針	事業継続
------	------

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。〔 〕内は社会的割引率の値